

評価対象課題の研究内容と評価結果（概要）

研究課題	2	ツキノワグマの個体群動態と将来予測手法の開発ならびに人里への出没メカニズムの解明（H29-R3）
研究目的・背景	<p>継続したヘア・トラップ調査の結果を組み入れた、県独自の個体群動態モデルと将来予測モデルを作成する。また、ツキノワグマにGPSテレメトリー首輪を装着して詳細な行動を把握し、大量出没年と非大量出没年の行動の変化からクマの人里への出没要因を検討する。</p>	
研究内容	<p>岩手県全域を対象としたヘア・トラップ調査の結果を用いて、ハーベストベースドモデルをベースとしたクマの個体群動態モデルを作成し、過去10年の個体群動態を把握するとともに、2022年以降のクマの個体群動態を予測する。</p>	
評価結果	<p>○総合評価 A（5人）・B（1人）・C（0人）<del>・D（1人）</del></p> <p>○総合意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この課題で有用な成果が多く出ています。今後、人里への被害に対するクマの生息数や生息場の環境状態など影響を明らかにし、自然動物の保護と人の安全性確保のバランスを見極める必要があると思います。</li> <li>・自然環境の変動、環境破壊など複雑な変動要因の中での研究であるが、人間との共存にとって重要な意味をもつ研究であり、その研究成果は評価できる。</li> <li>・岩手県はツキノワグマ研究の先導的役割を果たしている。今後も引き続き研究を進め、行政施策に反映していただきたい。</li> <li>・適正な手法により県内のツキノワグマの個体数や行動に関する科学的な情報を提供し、施策として行われる保護管理計画に大きな貢献となる成果である。クマ出没は県民の大きな関心事であり、保護との両立を図った適切な情報提供に努めてもらいたい。</li> <li>・研究はツキノワグマの生態について明らかにし人里への出没メカニズムを解明することにあることから成果は十分に達成している。一方、最終目標である人的、農林業被害の軽減にまではつながっていない。被害の低減と腫の保存の両方を実現することは難しいと思われるが、研究で終わることなく、本成果を行政施策に反映できるように努めて欲しい。</li> <li>・限られた予算の中、成果を上げていると思います。今後も明らかにする課題があると思うので、さらなる調査研究を期待します。</li> </ul>	

<p>センターの対応方針</p>	<p>I 研究成果は目標を十分達成した</p> <p>II 研究成果は目標をほぼ達成した</p> <p>III 研究成果は目標をかなり下回った</p> <p>IV 研究成果は目標を大幅に下回った</p> <p>V 研究成果がなかった</p> <p>本研究は、岩手県におけるツキノワグマによる被害軽減と地域個体群を維持するという課題を解決するために必要な研究である。自然環境やその他様々な変動要因を持つ難しい研究となっているが、ひとつひとつ問題を解決しながら進めているものであり、その結果は、保護管理計画の基礎数値に採用されるなど成果は十分に達成していると考ええる。</p> <p>今後は、標識再捕獲法による推定精度の向上を図り、適切な情報提供に努めたい。</p>
------------------	---

※ 記載欄は適宜調整（拡縮）してください。